

令和7年度 医療・介護連携に係るアンケート 概要

【経緯】

鳥取県東部圏域では、平成27年度から医療・介護連携に係るアンケート調査を実施し、連携状況等の把握や連携強化の取組を行っています。

また、本アンケートでは令和元年度に作成しました「鳥取県東部 入院・退院時におけるケアマネージャーと医療機関 連携・情報共有の手引き」の活用状況や退院調整率の回答も依頼していましたが、退院調整率は9割を超えており、また手引きについても一定の活用状況が確認できたことより、今年度は目的及び調査項目を一部変更し実施しました。

【目的】

- (1) 圏域の医療介護連携の課題やICTの活用状況等を把握し、今後の連携体制や在り方について検討する基礎資料とする。
- (2) 「連携・情報共有の手引き」について、活用状況や改善点を把握し、医療介護連携の推進に向けて活用促進を図る。

【調査対象】

鳥取県東部圏域に属する下記機関の代表者（所属の意見を取りまとめて回答）

- (1) 病院 [地域連携担当者]
- (2) 居宅介護支援事業所 [介護支援専門員]
- (3) 小規模多機能型居宅介護事業所 [介護支援専門員]
- (4) 地域包括支援センター [ケースを担当する職員]

【調査方法】

電子メール等で依頼し、電子申請または電子メールに添付したアンケート調査票にて回答のうえ回収する。

【調査期間】

令和7年10月27日から12月12日

【調査項目】

- (1) 他機関との連携状況や、手引きの活用状況
- (2) 研修会のニーズ
- (3) オンライン等ICTの活用状況 など

【調査対象数及び回収数・回収率】

	対象数	回答数	回収率 (%)
病院	10	10	100.0
居宅介護支援事業所	45	45	100.0
小規模多機能型居宅介護事業所	31	26	83.9
地域包括支援センター	15	15	100.0
計	101	96	95.0

【結果概要】

1. 他機関との連携状況について

- 前回調査（令和5年）時に比べ「連携しやすくなった」が4割弱、「変わっていない」が約6割であった。変わっていない理由として、「以前から連携が取れていた」との回答があった一方、「連携具合に変化を感じない」「医療機関や事業所による連携のしやすさの違いは以前と変わらない」という回答も複数あった。
- 手引きについて肯定的な意見が6割を占めていた。一方「フォーマットの配色見直し」や「ダウンロードの要望」「定期的な修正・更新を求める」意見があった。

2. 在宅医療介護連携推進室・鳥取市保健所主催の研修会について

- 参加した研修会で一番多かったのは「多職種研修会“絆”研修」であった。今年度10年目を迎えた研修会であり、圏域の連携に向け、幅広く定着に向けた効果があったと思われる。また関心が高い研修内容として、「認知症に係る対応」や「災害・感染症対応」等の意見も多かった。
- 参加しやすい日程は「平日日中」が一番多く、また「1日で終わられる内容」を希望する回答が多かった。その他、「YouTube利用やアーカイブ配信を希望」の意見もあった。

3. オンライン等ICTの活用について

- オンラインの活用状況について「研修企画・受講」が一番多かったが、「退院カンファレンス」や「個別支援会議」で活用したとの回答もあった。
- ICT活用推進への意見として、「機器導入の金銭的負担が大きい」「ICT活用に詳しい職員が少ない」「一般家庭（高齢者世帯）に対するサポート体制を整えればもっと普及する」「導入した施設の実践例を知りたい」との意見があった。

4. 医療・介護連携について

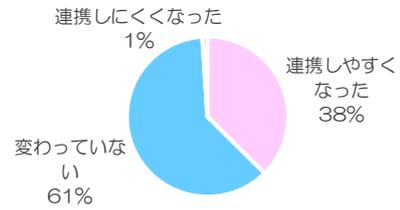
- “退院支援を中心とした医療・介護連携の在り方”や“情報共有方法”“精神疾患や支援困難ケースへの対応”等、現場で直面する具体的な課題が多く挙げられていた。
一方で、医療・介護連携の重要性については共通した認識が示されており、実務レベルも含め今後も連携強化や運用改善、人材育成を含めた取組が求められる。

令和7年度 医療・介護連携に係るアンケート調査結果

1. 他機関との連携状況について

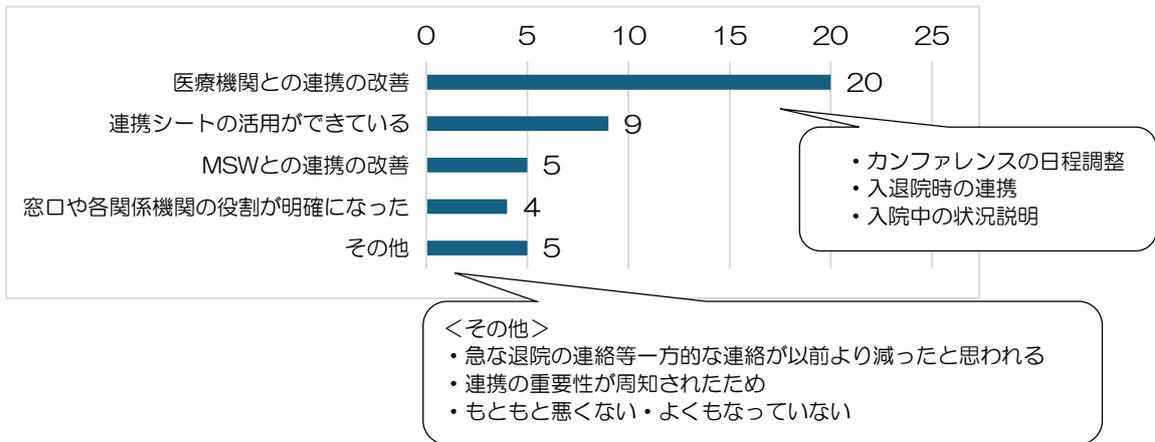
(1) 前回調査時（令和5年度）と比べ、医療介護連携の状況は変わっていますか。

	回答(実)	割合
連携しやすくなった	36	38%
変わっていない	59	61%
連携しにくくなった	1	1%
総計	96	100%

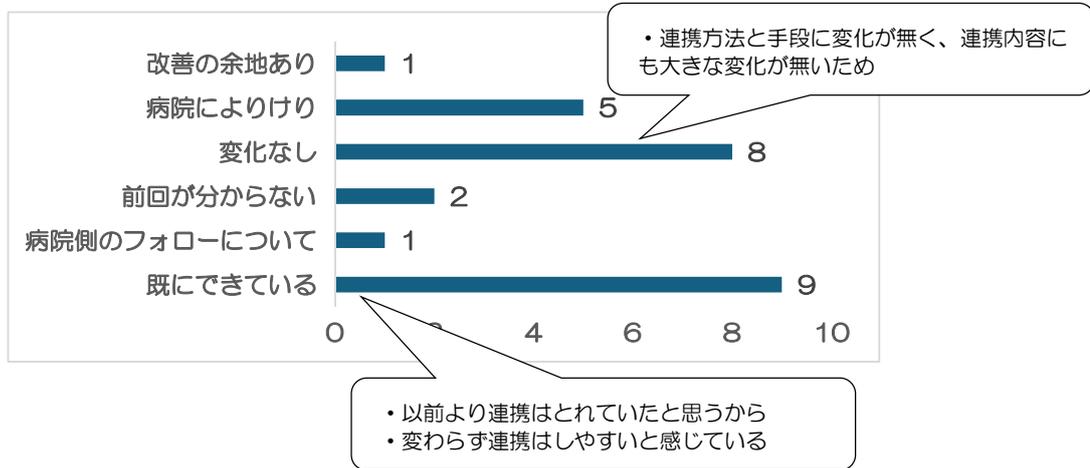


(2) (1) で回答された理由について教えてください。

■連携しやすくなった 理由



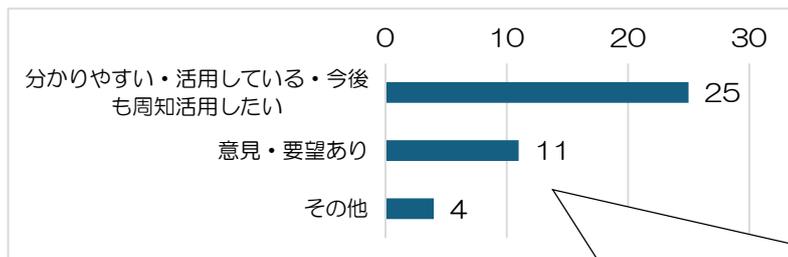
■変わっていない 理由



■連携しにくくなった 理由

- ・コロナ以降、色々なことが簡素化になってきているように感じる

(3) 令和元年度に作成（令和6年度改正）された「鳥取県東部入院・退院時におけるケアマネジャーと医療機関連携・情報共有の手引き」について御意見がありましたら教えてください。



<意見・要望について>

- ・ケアマネジャーが医療機関へ提供する情報提供シートについて、コピー時に文字が判別しにくいいため、フォーマットの配色見直しを要望する。
- ・入院時情報提供書の厚生労働省提示様式がダウンロードできるようにしてほしい。
- ・医師が連絡を受けやすい時間帯や状況を明示することで、医療機関間の連携促進につながるのではないか。
- ・第3表の週間サービス計画表も添付していただくと利用状況が把握出来て良い。
- ・記載漏れや電話による再確認が生じるため、入院時連絡票に最終排便・最終入浴の記載項目を入れてほしい。
- ・県から委託を受けて運営している認知症疾患医療センターについて、手引きへの掲載を要望する。
- ・今後も定期的に修正・更新してほしい

<その他>

- ・手引きは配布されているものの実務で十分に活用されておらず、確認が習慣化されていない。
- ・手引き掲載の入院時情報提供書とホームページ掲載様式で項目が異なるが、どちらを使用すべきか。
- ・業務整理の観点から見た必要性において、ケアマネジャーから情報提供書を受け取った場合、短期入院で介護度やサービス内容に変化がない場合でも、看護連絡票の返書は必須とすべきか

2. 在宅医療介護連携推進室・鳥取市保健所が主催する研修会について

(1) あなたの所属する部署の職員が、これまでに参加したことがあるものすべてを選択してください。

研修会	回答(延)
多職種研修会“絆”研修	52
東部在宅医療・介護連携研究会 事例検討会	38
ACPノート実践研修会	28
ファシリテーター養成研修（令和7年度は『聴き方伝え方講座2025』）	22
多職種の気軽なつどいの場『とみやすベース』	15

(2) あなたが所属する部署として、関心の高い内容や今後参加したい研修について教えてください。

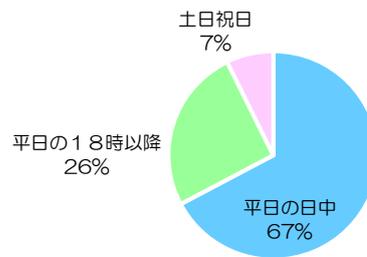
研修会	回答(延)
認知症に係る対応	58
災害・感染時に係る対応	54
ACP実践	43
終末期の支援・看取り	41
入退院支援	39
生活支援・療養支援	33
ファシリテーション	11
事例検討会	11
プレゼンテーション	5
その他	1

<その他>

- ・アセスメント力の向上
- ・コミュニケーション能力

(3) 参加しやすい日程や希望の時間について教えてください。

希望日程・時間帯	回答(延)	割合
平日の日中	74	67
平日の18時以降	28	26
土日祝日	8	7



(4) 参加しやすい日程や希望の時間について教えてください。

参加しやすい実施形態	回答	割合
1日で終わられる	71	74
1回の開催は短く複数回開催	25	26



(5) その他、研修内容・企画について、御意見がありましたら教えてください。

- ・グループワークが頻回にあると集中できない。
- ・病院側と在宅側とで意見交換ができればと思う。
- ・研修の2か月前くらいに日程が分かると、スケジュール調整がしやすい。
- ・YouTubeやアーカイブ配信があればより研修を受けやすい。
- ・介護保険以外で生活を支える制度や機関によるサービス（有料含む）の情報提供がほしい。

3. オンライン等ICTの活用について

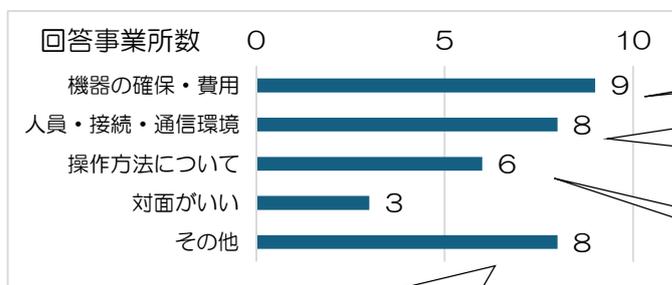
(1) これまでに、オンライン等ICTを活用経験について教えてください。（対面と併用・一部でも）

オンラインを活用したものを含め、活用したことのある項目を選択してください。

活用経験	回答(延)
研修の企画・受講	75
退院カンファレンス	36
個別支援会議・担当者会議	22
オンライン等のICTを活用したことがない	10
地域ケア会議	9
その他	6

- <その他>
- ・介護認定調査
 - ・地域介護予防活動支援事業「楽集ねっと」
 - ・入院患者が施設に入所するための面談・施設実調

(2) ICTの活用を推進するための課題・研修・制度について、御意見がありましたら教えてください。



・機器の導入の金銭的負担が大きい

・ICTの活用に詳しい職員が少ない
・ネット環境が整っていない過疎地域のため、施設外ではつながらないこともある。

・ICT活用のための研修等を希望

- <その他>
- ・導入にあたり更に補助金を充実していく必要がある
 - ・医療・介護それぞれでシステム基盤やフォーマットが異なり、情報連携が難しい
 - ・一般家庭（高齢者世帯）に対するサポート体制が整えば、もっと普及していくと思われる
 - ・導入した施設の実践例を見たい。
 - ・特定のツールを強く普及させる動きがほしい。

4. 医療・介護連携について（自由記載）

“退院支援を中心とした医療・介護連携の在り方”や“情報共有方法”“精神疾患や支援困難ケースへの対応”等、現場で直面する具体的な課題が多く挙げられた。

一方で、医療・介護連携の重要性については共通した認識が示されており、今後は実務レベルでの連携強化や運用改善、人材育成を含めた取組が求められる。

退院支援・退院前後の連携について

- 退院前支援カンファレンスを活発に行い、在宅生活につなげたい
- 退院の連絡が直前（当日・前日）で、サービス調整が困難
- 退院支援の再検討を求めても病院側に応じてもらえないケースがある
- 「退院すれば終わり」ではなく、相互に連携した関係を望む

情報提供・情報共有

- 入院時情報提供書はメールでの送付を原則にしてほしい
- 電話・FAXだけでなく、メール等の活用を望む
- 書類準備の負担（コピー代・手間）が大きい
- 「意向の話し合い」欄が空白のことが多い
- 居宅サービス計画書（第3表）が添付されていない場合がある

精神疾患・医療拒否ケースへの対応

- 精神疾患が疑われるが受診を拒否されるケースへの対応に苦慮
- 精神疾患への訪問診療を行う医療機関がなく、支援が停滞

人材育成・研修について

- 若手は研修参加が多いが、年配・管理職層は参加が少ない印象
- MSWの資質や次世代育成への不安
- 職能団体による人材育成への期待

その他（個別ケースについて）

- かかりつけ医へ相談する適切な時間帯が分からない
- 気軽に相談できる仕組みがほしい
- 往診や診断の見立てに関する助言体制を求める
- 身寄りのない人の対応について、事業所が対応を断るケースがある